（別紙4）　令和　5　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4392700052		
法人名	社会福祉法人昭寿会		
事業所名	福寿苑グループホーム		
所在地	熊本県阿蘇郡南小国町大字満願寺5861		
自己評価作成日	令和5年9月	評価結果市町村受理日	令和5年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和5年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年5月8日から新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行しましたが地域の感染の発生状況を鑑みながらクラスター発生をしない様に注意しながら活動している状況です。ご家族とラインで繋げたり最近では面会は時間や人数の制限はありますが対面を行いご家族との時間を大切にしています。入居者の方の身体のレベル低下も見られますが自分の残存能力を活かして頂き出来ない事をサポートする様に努めています。また季節に応じた行事や家庭菜園にも力を入れ季節の野菜の収穫をしご利用者に楽しんで頂いています。同じ敷地内の特養医務と連携し、毎日の健康状態や受診等の対応や重度化しても安心して暮らせる様支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

南小国温泉郷の一角にあるホームは四季折々の変化を楽しめるが、民家が少ないことや河川氾濫などの心配な点もあり、災害対策については意識を高く持ち、火災や自然災害、不審者侵入への対応等、消防、警察署の協力、指導を受けながら毎月何らかの訓練や勉強会が実施されている。外部評価については受審回数を重ねてもホーム運営に活かす姿勢で毎回真摯に自己評価に取り組み、訪問調査の無い年度も目標達成計画書を事務所に掲示し、啓発、共有が図られている。今年度はコロナ禍で家族との面会や地域との交流、イベントへの参加がなく、入居者のストレスへの対応を課題にあげ、クラスターの発生を阻止し、入居者、家族を支えるための取組内容が記されている。経年にあってもホームを大切に思う職員の姿勢が環境整備を通して入居者の安全性や居心地の良さに繋がっており、変わらぬ体制に期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名：福寿苑グループホーム

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関とリビングとスタッフルームに掲示し理念の共有に取り組み、一人ひとりの想いに寄り添いあたりまえの生活をお手伝いしています。	開設から15年、理念はしっかりと定着し入居者支援に反映されており、管理者は新たな入職者が早期に入居者との関係性を築き、ホームの一員として活躍できるよう導いている。年目標にはコロナ感染症が5類に移行したとはいえ、動向を見ながらドライブなどを通じて地域の空気を感じてもらうような取組を掲げている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や法人内のイベントはコロナ禍で中止となっていましたので交流ができていませんが地域の草刈りや行きつけの美容室にお連れしたり徐々に日常に戻れる様な日に努めています。	以前参加していた地域行事の再開には至っておらず、職員は草刈り作業など出来る事で人々と繋がるようにしている。管理者が小学生を対象としたキャラバンメイトの養成講座に出向き、車椅子体験などを通じて認知症高齢者の啓発活動に尽力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして小学生の認知症サポータ養成講座に参加したり、運営推進会議で認知症のお話をして認知症の理解に努めています。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に行っていますが昨年度はコロナ禍で書面上の時もありました。活動状況や防災訓練、事故報告、外部評価結果等の報告をさせて頂きサービスの向上に繋げています。	令和5年度の会議は対面で開催されており、行政や地域代表者、町のボランティア委員などをはじめ、家族にも数名づつに分けて参加を依頼している。外部評価受審後は結果資料を事前配布して一読して入ってもらうことで、参加者の意見の引き出しに反映するようにしている。会議の中では中止していた法人合同の防犯訓練の再開の様子や防災訓練、事故及び身体拘束などについて報告し、危機管理に対するホームの姿勢を明らかにしている。	運営推進会議が意見交換や地域情報の収集の機会として活かされており、今後は会議が法人施設で行われていることから、参加者にホームの居住スペースを見てもらうことで入居者の普段の様子を確認してもらうと共に、会議での話の内容がより具体性を増すものと思われる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方は必ず運営推進会議にも参加して頂いており、日頃より電話等で連絡を取っています。	行政からの運営推進会議への参加によりホームの現状を発信しながら情報を共有し、気になる点やわからない事があれば担当者に相談して、助言や指導を得るようにしている。認定調査にはケアマネジャーが立ち会い、入居者の現状を適切に伝えながらありのままを見てもらうこととしている。郡市のグループホーム連絡協議会も再開しており、情報交換や研修会の開催によりグループホーム全体の質の向上に努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内研修やGH勉強会で取り上げ身体拘束防止の意識を高めています。	ホーム内研修や外部研修で職員の意思統一を図り、法人全体で実施するストレスチェックで自己を振り返るようにしている。言葉使いについては研修会や普段から各自が気を付けるようにしており、入居者を尊重した言葉かけや対応を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止と同様に苑内研修やGH勉強会で学び、職員の行動指針を掲示し職員一人ひとり確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議等で資料を配付し説明し、知識として持っていると思います。ご家族には契約時資料として渡し説明をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明し、不安な事や不明な点はないか確認をします。報酬改定や負担金等の値上げの時には必ず説明を行い承諾書を頂いています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の満足度アンケートやご家族には面会時や電話や運営推進会議でも意見を聞きそれらをホームの運営に反映されています。 例）行事・防災訓練・面会等	入居者の意見や要望はその都度日常会話から聞き取り、「花を見たい」という要望には早速入居者とともに季節の花を植え楽しんでもらうように支援している。また、年2回は個別にアンケートを実施しているが、職員は入居者にわかりやすい表現にて質問し、内容を記録している。家族には運営推進会議時や面会、電話などで意見を聞くようにしており、話しやすい雰囲気づくりにも努めている。	本年度は家族アンケートが行われていないようであり、今後はサービスの向上に繋がるような質問内容を職員で検討し実施されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会や個人面談の時に意見を聞きすぐできる事は改善していく様にしています。 例）職員の勝手口の人感センサーライト取付	ホームでは職員の安定的な雇用に向け、法人と一体となり業務改善に取り組み、年間休日の拡大や勤務年数を考慮してリフレッシュ休暇による連休の取得など、大幅な改善を行っている。年2回の個人面談に限らず普段から意見を出し合い、発言しやすい環境作りに努めており、危機管理に勝手口への人感センサーが新たに設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度もリフレッシュ休暇取得率100％でした。有給休暇や公休希望を入れたシフトになっています。また、人事考課のチャレンジシートの活用で仕事のやりがいを感じている様に思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修を月に1回行い、参加できない職員には資料提供し伝達方式として学ぶ機会を作っています。苑外研修ではオンラインでの研修ですが参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度もコロナ禍で阿蘇地域の地域密着型連絡協議会も滞っている状態です。アンケート調査がある時には活用しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを図りながら傾聴し信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は家族とよくコミュニケーションをとり、不安な事や要望等に傾聴しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い何がベストなのか他のスタッフと話し合いながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身のレベル低下が見られますが日常生活で自分でできる事（洗濯物たたみ・台拭き等）をして貰っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に電話やラインやお手紙で近況報告しています。ご家族の声や本人の声が聞きたい時には苑から電話しています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの感染状況を観ながら行きつけの美容室にお連れしたり、同じ敷地内に入居している姉妹に会いに行く支援をしています。	現在家族等との面会は時間や人数などに制限はあるものの対面で出来ており、互いに安心されているようである。法人内に入所する姉妹やご主人との面会を楽しみにされる方もおられる。入居者は職員とともに菜園や花壇での手入れを楽しみにされ、干し柿づくりで出た皮も天日干しにして活用するなど、先人の知恵が活かされている。かかりつけ医である地域の医師とは長年の関係性から入居者の安心するところとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆どの入居者の方はリビングで過ごされ3食の食事、色塗りやパズルや体操やレクリエーションをしながら過ごしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても気軽に相談できる様に声掛けをしています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を傾聴し、情報共有に勉強会で職員間で把握しています。困難な事例にはケアマネジャーが中心となり他のスタッフと話し合いアセスメントしながら意見を聞いています。	職員は入居者との普段の生活の中から思いを引き出し、苦手な食材には代替え品を用意し、食器も他者と同じものを使い安心して食べてもらうよう工夫している。入居者の意向は職員で共有し、引き出しが困難な場合はこれまでの生活ぶりや家族の意向から推察してプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	２４時間シートやセンター方式「私の気持ち」シートを活用しこれまでの経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から情報を頂き、本人のペースで過ごせる様に日々の生活の観察を行い現状を維持できる様に努めています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で中々面会もできない為、電話でご意見や意向を聞いていました。その人らしさを大切にケアプランに反映しています。モニタリングは3ヶ月毎に行い状態が変わればその都度変更しています。	本人・家族の意向を中心に月のカンファレンスや日常の気づきからあがった職員の声をプランに反映させている。入居者のできる事や楽しみごとに関わってもらいながら、ホームでの生活の安定を重視したプランが立案されている。最高齢になっても日課の新聞読みや脳トレに励まれたり、衣類や身の回りへのこだわりなど本人の意思を尊重し、それらが出来る環境を整える内容を掲げている。3か月ごとのモニタリングで評価・見直しを行い、入居者の現状に沿ったプランとしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報の共有としてカーデックスや申し送りノートに記載し、毎日の様子はケース記録に記載し見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍での日々で我慢する事は多かった様に思いますが本人や家族のニーズにできるだけ応えられる様に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域交流が思う様にできなかったと思いますが感染状況を観ながら行きつけの美容室に出かけたりドライブをしたりと今できる事を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との信頼関係は厚く、定期的な受診や日頃より心身の状態報告をし、専門科受診時は紹介状を頂き搬送し家族の同席をお願いしています。	協力医療機関による定期受診を支援している。本人・家族、また職員の協力医への信頼は厚く、日頃から心身の状態報告を行い必要な指示を受けたり、状況に応じて専門医受診が行われている。専門医については、現地で待ち合わせる等家族の同席を依頼し、状況を共有している。口腔ケアについては、食後の歯磨きや義歯管理などをサポートし、治療が必要な方には訪問診療で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内の看護師・看護職員と連携し、日々の利用者の健康状態や特変時の観察を行なっています。何かあれば看護師の方からかかりつけ医に連絡し指示にて対応しています。夜間はオンコール体制で急変時の対応も行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と連携し、入院中の状況や退院に向けての話し合う機会を設けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明し家族より同意を頂いています。また当苑でできる医行為が限られていますので説明し本人・家族の希望に沿った支援ができる様に努めています。	入居時に重度化に関する指針について説明し、その時点での本人・家族の意向を聞き取り同意を得ている。管理者は看取りついて慌てず、穏やかで安らかな支援に取り組むことを日頃から職員へ伝えている。この1年で家族の意向もあり100歳の方の看取り支援が行われている。コロナ禍にあり家族が入室し共に過ごすことは難しかったため、ベッドを掃き出し窓に向け面会してもらい職員が状況を伝えている。支援後は家族にアンケートを依頼し、職員間で振り返る機会をもっている。	家族からは職員の普段の関わりや主治医の丁寧な説明、対応に感謝を伝えられている。今後も本人・家族の意向を聞きながらホームに出来得る支援に努めていかれる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として救急法を消防職員から講習を受けています。また看護師・看護職員との連携によりすぐ対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災(広域消防北部署より職員派遣有)・地震・水害・不審者対応（小国警察署刑事派遣有）の避難訓練を行い、職員の意識を高めています。同じ敷地内の施設からの応援体制を取っています。	災害対策に関して法人、ホームの意識は高く、年2回火災に関する訓練と、水害と地震を各1回、母体特養と合同で不審者対応訓練を実施している。訓練には広域消防署や警察署員の協力、指導を受ける他、毎月何らかの災害対策に関する訓練や勉強会が開催されている。以前、ホーム近くの川が氾濫したこともあり、水害については特に、避難の意識を高くしている。食料や備品は本体とホームでリストをもとに確保している。	BCPについて職員間での共有が出来ているが、今年は再度見直し中であり、完成後に職員への周知の機会を予定している。取組が期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や苑内研修でも「プライバシーについて」学び、一人ひとりの個性やプライドを尊重しながら声掛けや対応をしています。	入居者の尊厳やプライバシーの確保について、職員会議や法人内研修で学び、振り返りを行っている。呼称は苗字を基本としながら反応から旧姓でも対応している。使用後の尿取りパットをそのまま捨てる事に抵抗を持たれる方には新聞紙を用意することで、自身で包みトイレ内に置かれている。職員は入居者から学ぶことが多く、今後も本人が大切にしておられることに気づき、必要な支援に繋げたいとしている。身だしなみやおしゃれについても家族の協力も得ながら、髪のカットやお化粧、好みの衣類の選択など支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションを大切に自分の思いや希望が伝えられる様な雰囲気作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて日々の暮らしを支え一人ひとりの希望に添える様に職員間で情報を共有し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きてパッジャマから自分の服を選んだり、お化粧したりと自分で出来る方は自由にして頂いています。行きつけの美容室に行かれる方、訪問の理容室を利用される方その人らしい身だしなみの支援をしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物は代替えを準備したり、家庭菜園で採れた野菜を料理したりして食して頂いています。またたこ焼きや団子作り等作る楽しさも味わって頂き楽しんで貰っています。	現在は母体特養で調理されたものを提供しているが、入居者の嗜好は聞き取り調査や検食簿に職員と入居者意見の欄を設け今後に活かされている。苦手な食材があれば除去（ハムが苦手な場合ハムなし等）や、代替え（魚を肉へなど）で準備する際はホームで他の方と同じ器に盛り付ける等配慮している。入居者が普段の調理に関わる機会は持たれていないが、たこ焼きや団子、干し柿づくり、柚子絞り（柚子酢や柚子茶に活用）など季節に応じて出番が用意されている。	全員が自分のペースで食事され、職員は見守りや声掛けなど最小限のサポートに努める光景が見られた。まだ外出の制限も続く可能性もあり、今後も職員のアイディアや工夫で地域ならではの食への取組などを継続されていくことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックや水分量の測量が必要な方、一人ひとりの状態に応じた食事形態や食器の選択等を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行います。見守り・介助を要する方の支援を行います。口腔内に異常があれば訪問歯科医に繋げています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイでの排泄ができる様に支援しています。2人介助が必要な時には日中だけでもトイレでできる様に支援しています。	居室内や共有トイレは気持ちよく使用できるよう常に清潔を保ち、トイレでの排泄を基本とし支援している。殆どがリハビリパンツを使用されているが、パットも併用しながら布パンツで過ごされる方もおられる。ホームは毎日カンファレンスに近い時間を設けており、居室にトイレが配置されていても、状況に応じてポータブルトイレの支援、トイレットペーパーを手の届く所に置くなど、個別対応の充実が検討されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食前に牛乳、毎夕食事にヨーグルトを摂取して頂き、毎日体操も行い、便秘予防対策をしています、		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には心が穏やかになる音楽を流したり、ご利用者の体調をお尋ねして入浴をして頂いています。5月には菖蒲湯や12月にはゆず湯を準備し季節感を楽しんで頂いています。	ゆっくりと湯船に浸かってもらうことや安全面を考慮し、職員2名介助で週2～3回の入浴支援を行っている。基本的に午後からの支援であるが、状況に応じて午前中も対応している。明るい浴室や脱衣所は清潔に管理し、季節や入居者に応じて室温や湯温を調整している。菖蒲や柚子は職員の差し入れもあり、継続して取り組んでいる。	入浴中は音楽を流すなど入居者にとってくつろぎの時間となる様職員の取組が確認された。今後もシェーバーの管理など安全面にも配慮しながら楽しみとなる入浴支援の継続に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中リビングで過ごされる方には体操やレク活動等をしてメリハリのある生活をして頂き、夜間の睡眠に繋げていますが夜間不眠時にはリラックスできる飲み物を準備して付き添います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬内容をファイルにして解り易くまとめています。服薬時には誤薬がない様にマニュアル通りに3回（氏名と顔）確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出する事が少なくなっていますが苑内で季節毎の行事や天気のいい日には玄関前のベンチでお茶会をしたりと楽しみになる様に気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩をしたり、ドライブ（お花見や紅葉見学）に行き季節感を味わって頂いています。	コロナ禍の時も敷地内の散歩は可能な限り継続している。また、ドライブで桜や紅葉見学の機会が持たれている。地域には昔から伝わる祭りがあり、以前は入居者も楽しみにされていた事から、今後は状居を見ながら地域資源を活用した外出支援を再開していきたいとしている。	祭りの光景は入居者にとっても楽しみの一つと思われる。今後はビデオやユーチューブ等も活用して、地元に限らず各地の祭りの様子などを見ることも良いと思われる。また、自宅への帰省が出来ない分、家族が来所した際は、状況を見ながら敷地内の散歩など支援されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金を所持している方が1名居られますが特に問題はない様です。お小遣い以上持参されている方は事務所で管理しています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方はこちらからかけて差し上げます。暑中見舞いや年賀状は書ける方は書いて出します。近況報告は定期的に写真を同封して出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常時の空気清浄機、定期的な換気を行なっています。苑周りには花を植え、家庭菜園の緑と実になった背景を観ながら季節感が伺えます。苑内は毎日の掃除が行き届き清潔感があります。	玄関先やホーム内の随所に敷地内に咲いたものや職員が持ち寄った草花を飾り、季節感のある空間を作っている。玄関先には吊るし柿の光景も見られた。リビングは食事やレクレーションなど日中の活動の場であり、入居者が窓の外を見ながら「花が植えてなかとさみしかね～！」と発せられ、職員はすぐに花苗を植え喜ばれている。外出行事も控えており、ホーム内でのイベント（夏祭りや敬老会他）を通し、入居者が楽しめる時間を作っており、廊下には入居者と職員の作品展示コーナーも設けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは本人が好きな場所で過ごして頂ける様にソファーやリクライニング椅子を準備し自由に居心地の良い空間になっていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には思い出の写真や品が飾っており、本人が居心地がよく住まわれる様に家具の配置をしています。	ゆとりの広さと掃き出し窓によって開放感のある居室からは草花や樹木の彩りなどが眺められ、入居者がゆっくりとした時間を過ごせる環境である。入居時に馴染みの品やテレビなど、本人が安心されるよう何でも持ち込んで欲しい旨を伝えており、お気に入りの衣服や家具、家族の写真等が持ち込まれている。まだ居室での家族の面会は控えており、衣類の管理は職員が中心に行っており、不足などがあれば近況報告も兼ねてその都度伝えている。	どの部屋も居室担当者を中心に整頓や掃除の徹底と、安全面に配慮した物品の配置が行われている。今後も家族の訪室を控える状況が続くようであれば、引き続き居室内の様子など発信されていくことを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線に合わせた表示をし危険がない様に導線を確保しています。本人が出来る事は見守り、できない事はサポートする様に職員が共有しています。		